

2015 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校] 担当教諭名[及川 道子] (総務部ユネスコ部門中 1-高 2 12 名)

交流相手国[インドネシア]

海外学校名[TUGASKU Islamic Junior High School] 担当教諭名[Febby Anggraeni]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	特別活動(委員会)	インドネシアとのつながりを深めよう	3
	放課後	アートマイルプロジェクト	40

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	両国の文化(伝統的な行事)とつながり
絵に込めたメッセージ	日本は伝統的な波の文様に浮世絵の大波をあしらひ、相手国は雲の文様を背景にして、両国と世界をつなぐ海と空を表現した。中央のハートにはそれぞれの国の代表的な花を画き結びつきを強めた。そこに日本は伝統行事の代表的なモチーフを画き、インドネシアは代表のお祭りを画き、それぞれの国らしさを表現した。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
イスラム教の学校の習慣を知り、尊重・理解する良い機会になった。インドネシアの生徒の英語力に触発され勉強意欲が高まった。美術の教員・美術部の生徒の応援を得ることができ、委員会だけでなく活動に広がりを持たせることができた。達成感・成就感を持つことができ、両国で共有できた喜びは大きい。	始めの学校のキャンセルが決定するまでに時間がかかり、7 月～9 月が全く停止したのは痛かった。次の学校が決まったのは良かったが、自己紹介から完成まで、こちらが立て込んでいる時期の 2 か月しかない状態で、生徒に相当無理をさせてしまった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
普段接する機会のないインドネシアと交流することになり、国の位置や特色、また、イスラム教に関して、新しく知ることが多く、国際理解の視野が広まった。英語をツールとして交流することで、英語力を高めたいという意識が強まった。絵を仕上げるにあたり、創造力、計画性、集中力、忍耐力を高めることができた。	海外の学校と繋がりをもつことの難しさと楽しさ、やりがいを感じることができた。フォーラムやスカイプを経験することができ、IT 関連のスキルアップになった。英語への敷居が少し低くなった。様々な出会いがあり、皆様に支えられ、ご協力を頂いて完成できた感謝の気持ちでいっぱいである。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	10月 11月	フォーラムを通して、メンバーの写真と自己紹介カードの写真を交換した。スカイプの映像を通して直接会話し、自己紹介をした。	英語で表現することが大変勉強になった。日本のアニメが好きで、日本にとっても興味を示してくれ、顔を見合って話したことで親近感がわき、交流への意欲が高まった。	委員会時
テーマ学習	11月	スカイプの映像を通して、自分の国や学校について、図や写真を示しながら説明した。	インドネシアでは、日常生活に英語を使っているようで、英語を話すのが上手な生徒に触発された。描きたい行事について分担してよく調べた。	放課後
構図決定	11月	美術科の教員や美術部の生徒の協力も得て下書きを練った。フォーラムを通して、本校からの提案に、相手校の意見を求めながら決定した。	高校生中心に、伝統的な年中行事をどのように表現するか、納得がいくまで何度も練り直した。	放課後
壁画制作	12月	休日に登校したり、放課後遅くまで残ったりして、製作に当たった。	2校目の学校との交流が実質10月開始になり、本校は学寮や文化祭、中間考査と立て込んでいる中で、12月中に仕上げることを目指して、かなり無理をして頑張った。	休日 放課後
鑑賞・振り返り	3月	相手校も仕上げて2月23日に到着。生徒が登下校する玄関ホールに展示。3/8にスカイプで、完成の喜びを共有し、学んだことを話し合った。友好関係を保ち、交流の継続を決定。	壁画という形になることで達成感を味わうことができた。インドネシアの中学生と交流できた喜びが大きい。本校独自の取り組みであるが、校内ESD 大賞を受賞。	放課後

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入（A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった）

「成果」先生の手応え（5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった）

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	欧米に目が向きがちなところ、改めて伝統的な日本の年中行事に注目した。江戸小紋や浮世絵を取り入れた。
異文化の理解	B	4	インドネシアの地理、歴史、環境その他事前に調べ、レポートにまとめた。直接話し合う中で、生活習慣等違いを実感した。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	カードの作成、フォーラムへの書き込み、スカイプでの会話に向けて英語力を磨いた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	図書室の本やネットを活用し、自文化・異文化の理解を深めた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	中1～高2までの構成メンバーで異年齢の絆を深めた。相手の中学生と会話をし、気持ちを通じ合うことができた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	学年や能力に応じた役割分担をし、それぞれが自分のできることを最大限に発揮して協力して仕事を進めることができた。
学習を追究する意欲	B	4	高校生を中心に、プロジェクトを成功させようと、意欲的に取り組み、下調べや図案作成など探究的に進めた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	5	美術部のメンバーの協力を得て、妥協せずに伝えたいことを絵に表すようよく努力した。
作品を鑑賞する力	B	5	全校生徒に見てもらい、放送朝礼の話題にも取り上げられ、両校の表現したいことや交流の様子を伝えることができた。